

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4571700444		
法人名	特定非営利活動法人いちいがしの里		
事業所名	グループホームオリーブ		
所在地	宮崎県都城市山之口町花木2152番地3 (電話) 0986-57-2411		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成22年2月16日	評価確定日	平成22年3月26日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地の一角に位置し、広い敷地に2ユニットのホームがある。小・中学生が花の苗を持ってきたりハンドベルを奏でたり、ボランティアの踊りや大正琴の演奏もある。ホームの状況が詳しく記載された隔月発行のホーム便りや毎月出される利用者の暮らしの状況を書いた便りは、家族に安心と信頼感を与えている。医療機関受診記録も家族、主治医、訪問看護師との連携の様子が詳細に記録に残され業務遂行に当たって必要とするものについては、簡素化した独自の様式をつくるなど、介護サービスに対する熱意がうかがえる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）</p> <p>前回の外部評価で外出支援と玄関に鍵をかけないケアの実践が課題となった項目としてあがったが、運営推進会議や職員会議でも改善に向けた話し合いが持たれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>自己評価については、全職員が分担して項目ごとに記載した後、職員全員でまとめている。職員は評価の意義を理解し、日々のケアを振り返る機会ととらえ、更に質の向上に取り組もうとしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>運営推進会議は2か月ごとに開催され、児童民生委員、支所健康福祉課、市の社会福祉協議会、利用者家族、利用者から4名の出席の下、利用者の状況、最近の行事と予定等を報告し、協議事項では、新型インフルエンザ対策や外部評価の課題項目等について意見交換が行われ、出された意見はサービス向上に生かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>運営推進会議や家族への便りとホーム便りで意見等を聞くようにしている。また、来訪時にも話しやすいよう問いかけし、意見等は介護日誌に申し送り欄を設け、職員全員で共有し運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>近くの牧場に利用者と散歩を兼ねて牛乳を買いに行き会話したり、小中学生や地域の人が花や野菜の苗を持って来たり、中学生によるハンドベルの演奏やボランティアの人が大正琴や踊り等で訪れている。また、地域の自治会に加入する努力もしている。</p>

## 【情報提供票より】（平成22年1月25日事業所記入）

### （1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年12月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤10人, 非常勤4人,	常勤換算5.9人

### （2）建物概要

建物構造	木造瓦葺き	造り
	2階建ての	1階部分

### （3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり			円

### （4）利用者の概要(平成22年1月25日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名	
要介護1	3	要介護2	7			
要介護3	4	要介護4	2			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	84歳	最低	69歳	最高	95歳

### （5）協力医療機関

協力医療機関名	志々目医院
---------	-------

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生きがいをもってすこやかに、安心して暮らすことができる社会づくり」を理念の基本方針とし、日々全員で取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を全員で唱和し、見やすい所に掲示するとともに、ホーム便りにさりげなく挿入し、家族にも理念を理解してもらえるように日々実践に向けて取り組んでいる、		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの牧場に利用者と散歩を兼ねて牛乳を買いに行き会話したり、小・中学生や地域の人が花や野菜の苗を持って来たり、ボランティアの人が大正琴や踊り等で訪れている。また、地域の自治会に加入する努力もし、地区の区長にお願いしているが未だ実現できていない。	○	ホームから出て地域の行事等に参加し、地域の人と交流出来るよう更に努力されることを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、日々のケアを振り返る機会ととらえ、全職員で取り組んでいる。外部評価で課題となった項目については、勉強会等で話し合い、更なる向上のため取り組もうとしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族代表や民生委員、市の職員等の参加で2か月に1回開催され、利用者の状況、最近の行事と予定等を報告し、協議事項では、新型インフルエンザ対策や外部評価の改善項目等について話し合い、出された意見はサービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議以外に書類等を直接持参し、報告や相談をするなどサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へのお便りとして、利用者の生活面、健康面、今後の対応、連絡事項で次の受診日、金銭管理等を毎月一人ひとりに担当職員が書いて知らせている。ホームの事業内容や菜園の様子、行事等を写真に掲載したホーム便りで2か月に1回報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族への便りとホーム便りで家族等の意見を聞くようにしている。また、来訪時にも話しやすく問いかけし、意見等は介護日誌に申し送り欄を設け、職員全員で共有し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員が離職する場合は、年休で勤務日数を徐々に減らしながら、他の職員と交代し利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等は職員の勤務の都合と内容により、希望者を優先的に参加させ、研修受講後は勉強会で復命報告を行い全員が共有している。内部研修も職員全員による勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会及び研修会での交流のほか、会場が他の事業所の時は、見学するなど交流する機会として、お互い抱えている問題点を提起し話し合い、共にサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族にホームを見学してもらい、本人が納得した時点で入居としているが、その間、特に職員との信頼関係に配慮し、落ち着き安心してなじめるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	訪問時に職員がゴッタン（木製の三味線のような楽器）を持たせると、利用者二人が弾いて職員が利用者に促されて踊り、他の利用者も一緒に唄ったり、手拍子をとって楽しいひと時を過ごした。また、職員は調理を教えもらったり、利用者からそば打ちを教えもらうなど共に支えあう様子が見えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部センター方式のアセスメントを取り入れて、利用者及び家族の意向や希望を把握し、サービス計画に取り入れ、その人らしく過せるように本人本位に検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを利用し、担当職員の意見やケア記録を基に担当者会議を開催し、本人、家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護ケア記録は計画に添って記入しており、介護計画の評価を毎月行い、全体会で話し合っている。また、定期的な見直しは3か月ごとに行い、特に変化が著しいと思われる場合などは、随時の見直しと現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への受診は、家族が困難な時は職員が付き添ったり、買い物などの外出支援を行っている。また、医療連携体制で24時間健康管理と月3回、訪問看護の訪問を受けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけの主治医、訪問看護と協力医療機関との連携ができており、利用者の受診には家族と職員が同行し、家族や主治医に状態を報告した内容、主治医のコメント等がホーム独自の医療受診記録に、きちんと整理されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針は作られ、訪問看護ステーションとの連携も強化されているが、本人、家族への説明や、重度化に向けた体制づくりは十分とは言えない。	○	利用者が安心してサービスを受けられるように重度化や終末期に向けた話し合いと対応方針を本人・家族等に説明するとともに体制づくりが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の食事介助や排泄介助の声かけはさりげなくその人をやさしく介助しており、日ごろから会議やミーティングの折にプライバシーの保護について話し合っている様子がうかがわれる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活歴や趣味などを把握しており、出来ること出来ないことに配慮しながら、その日の状況に合わせ希望に沿って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はホームの菜園で採れた野菜を使ってその人に合わせ食べやすく調理しており、食事は美味しいという利用者の声が聞かれた。職員は、時間がかかっても利用者が完食できるよう、さりげなく介助していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、基本的に決めてあるが、利用者の都合や希望に合わせて、いつでも入浴を楽しめるよう支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴を知り、大工だった人が洗濯物干しの組み立てをしたり、洗濯物を干す人、ゴッタンを奏でる人、短歌を作る人など、その人に合った役割や楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの広い敷地の一角に菜園があり、食べきれないほどの大根やエンドウ豆等植えてあり、畑に出たり、牛乳を買いに介護スタッフと出かけることもあるが、戸外に出る人は限られていて日常的な外出はしていない。	○	広い敷地の中だけでの生活から、外に出かけ気分転換が図られるよう、近隣の散歩やお花見などに出かける工夫もしてほしい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	南側のベランダへはいつでも自由に出られるが、玄関は施錠（オートロック）されており、職員が開けている。現在帰宅願望のある人が落ち着かれたら様子を見て、日中は、鍵を開ける工夫を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の通報、初期消火、夜間を想定した避難誘導等の訓練を年2回消防本部・地区の消防団・公民館の協力を得て実施している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の栄養バランスやカロリーは、栄養士にみてもらい、その時々の利用者の状況に応じて調整し、食事や水分摂取も記録シートにチェックしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れたリビング兼食堂は、南に面して畳敷きにソファがあり、庭を眺めたりテレビを見たり、語らいの場としてそれぞれが落ち着いて過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が自宅で使われていたベッドやタンス、仏壇等が置いてあり、職員は家族と一緒に利用者が安心して落ち着いて過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。